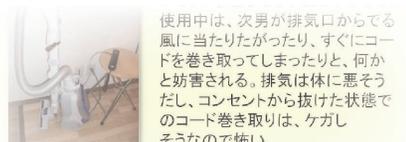


子育て賃貸住宅評価基準の設定

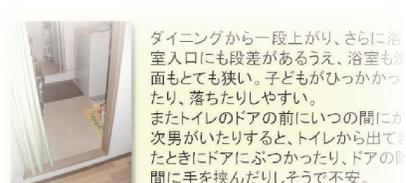
ミサワホーム株式会社



がり、引き出しの裏の補強板の角でおでこを打ったよう(現在はクッションテープを貼った)。血が額まで流れてびっくり。夜間診療所に駆け込んだ。



使用中は、次男が排気口から出る風に当たりたがったり、すぐにコードを巻き取ってしまったりと、何かと妨害される。排気は体に悪そうだし、コンセントから抜けた状態でのコード巻き取りは、ケガしそうなので怖い。



ダイニングから一段上がり、さらに浴室入口にも段差があるうえ、浴室も洗面もととも狭い。子どもがひっかかったり、落ちたりしやすい。またトイレのドアの前にいつの間にか次男がいたりすると、トイレから出てきたときにドアにぶつかったり、ドアの間に手を挟んだりしそうで不安。



長男にかまってほしい次男が、宿題をしている長男のところに行ったとき、ハイハイの次男の手の上を、長男がイスの脚のキャスターで踏いてしまわないか、何度もヒヤヒヤした。



ソファの足置き(オットマン)を移動し、キッチンに次男が入らないようにしている。しかし大きくならにつれて、隙間から入ったりするので、改善策を検討中。



目的

子育て住宅評価基準を設定し、安全な住宅を普及

家庭内事故の多くは、製品の不具合、不適切な設置場所、見通しの悪い空間等の様々な要因が複雑に重なりあった時に発生しやすい。つまり、家庭内事故の予防には、1つ1つの製品だけでなく、その製品に関わる住まい全体や社会全体をきちんと見直す必要がある。このプロジェクトは、1つ1つの家庭内事故と生活スタイル・住空間を照らし合わせ、その因果関係をきちんと調査する事が第一の目的である。

そしてこの調査結果をもとに、子育て住宅評価基準を設定し、良質で安全

な子育て住宅の普及に努めていきたい。評価基準により子育て住宅市場全体のレベルアップを目指し、子育てしやすい住まいを社会全体に広めることが最終の目的である。

又、家庭内事故予防の為に安全・安心に偏るのではなく、子どもの知性・感性育成の考えも取り入れ、体や頭脳や心が健全な子どもの育成を進めることも重要だと考えている。安全・安心の視点と子どもの健全な発育の視点の両方を取り入れた住まいづくりを行う為にも、家庭内事故が起こる背景の研究が必要であり、その為のデータ収集を広く行っていきたいと考えている。

・持家住宅に関しては、ミサワホーム企画型子育て住宅「SMAART STYLE O」(2010年4月～10月の販売棟数より算出(北海道、沖縄除く全国))のデータを用いて分析した。

・賃貸住宅に関しては、ミサワホームアパート型住宅「Belle Lead Cassiya」(2007年2月～2009年3月の販売棟数より算出(北海道、沖縄除く全国))及びミサワホームアパート型住宅「Belle Lead SELECT」(2010年1月～10月の販売棟数より算出(北海道、沖縄除く全国))のデータを用いて分析した。

子どもを持つ家庭の生活調査については、以下の2点を調査・実施する。

(1) 意識調査

インターネットを利用した定量調査を2回実施する。1回目の調査では、全体像を把握するために、幅広い範囲での質問項目を作成する。2回目では、1回目の回答を参考に、深掘すべきテーマを追跡し調査する。

全国重要都市にて100名のデータを目標とする。また、自由意見も収集し定性的な要素も加えて実施する。

(2) 生活不具合 MAP 作成

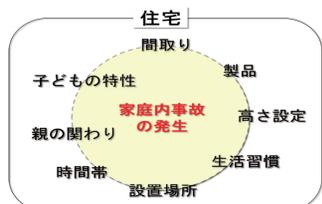
インターネット回答者の中から子どもを持つ家庭を訪問し、レポート調査を実施する。間取りや家具配置の詳細

実施方法

インターネット、家庭訪問で生活を調査

住宅販売実績調査については、住宅市場、賃貸住宅の規格型子育て住宅の分析を行った。

ミサワホームの顧客情報管理システム及び部品発注情報管理システムを用いて、住宅市場規模、住宅のサイズ、間取りプランの分析を行った。具体的には、以下のデータを用いた。



様々な要因が重なりあって家庭内事故が発生

1つ1つの要因とその因果関係を調査

業界の枠を超えた情報交換できるものづくりの仕組みを構築

多業種連携の子育てサポートシステムを構築 (まずは子育て住宅評価基準の設定からスタート)

と生活の中の不具合を生活地図上に表示した MAP を作成する。

結果・考察

住宅全体にダウンサイジング化が進行するなど

(1) 住宅全体にダウンサイジング化

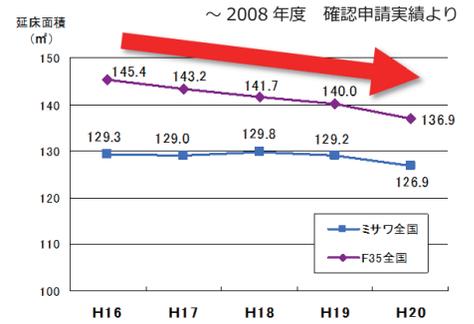
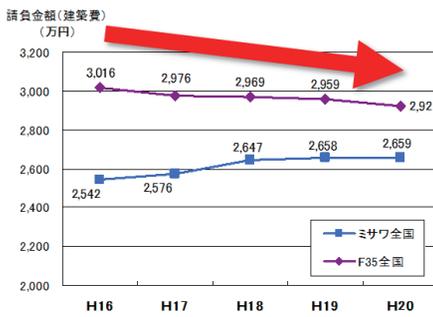
住宅市場規模、住宅のサイズ、ともに縮小化している。少子化による家族人数の減少や価値観の変化により、住宅購入意欲が減少し、身の丈にあった生活を求めるようになってきている。昔は子どものために庭付き一戸建てを建てたいという思いがあったが、最近では割り切った考えのもと、狭い賃貸住宅・庭のない都心の狭小住宅・高層マンション等で子育てをしている夫婦が増えている。

(2) 賃貸住宅の広さは持家住宅の 2/3

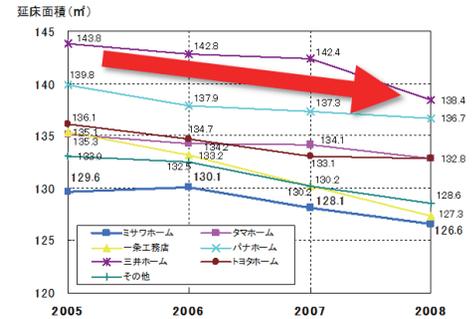
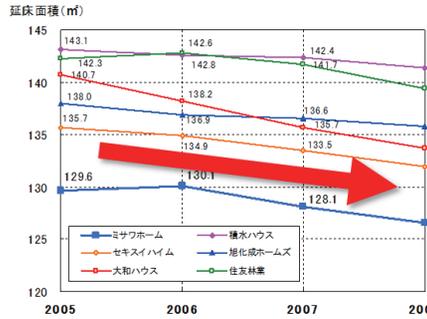
賃貸住宅の平均延床面積は、持家住宅の平均延床面積の 2/3 である。家で過ごす時間が長い乳幼児は、持家より賃貸住宅に住んでいる方が、狭い空間の中に長時間閉じ込められている可能性があると言える。

(3) 都心部に多いアパート賃貸、都市近郊や郊外に多い戸建賃貸

アパートタイプの賃貸住宅は東京や神奈川などの都心部に集中し、戸建タイプの賃貸住宅は都市近郊や郊外に集中している。都心と郊外では、賃貸住宅のタイプにも違いがあり、この違いが子育て環境の格差にもつながっていると考えられる。



市場における「建築費」と「延床面積」は、共に年々縮小傾向。(フラット35データ)



「新築 - 持家」市場における「延床面積」で、主要メーカーを見ても、全体的に縮小傾向。

空間に連続性がある間取りを选好

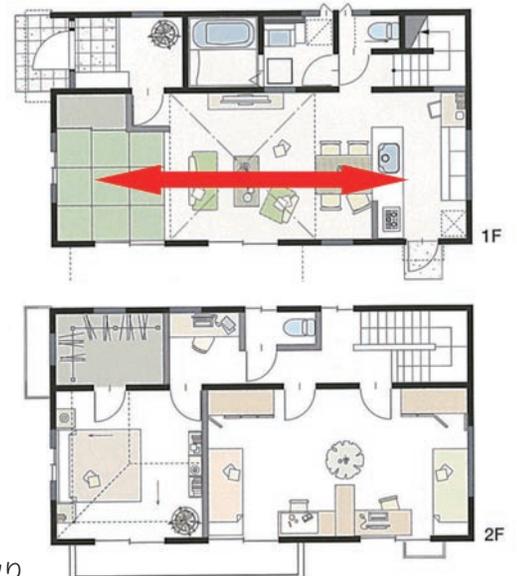
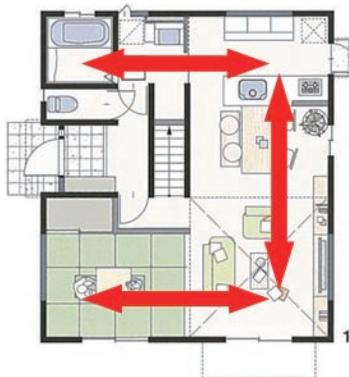
空間の連続性 = 子どもの気配が伝わる安心感 = 家庭内事故予防への期待

規格型子育て住宅を分析した結果、販売棟数ランキング表上位3位までは和室⇔LD⇔キッチン⇔洗面がつながっているプランであることがわかった。つまり子育て世代は、空間に連続性があり、どこにいても子どもの気配が伝わるような、安心感のある住まいを求めていると考えられる。間取りの工夫で本当に安心感が得られるのか、家庭内事故予防へとつながるのか、等はこれから検証する必要がある。

■販売棟数ランキング表

順位	プラン名	和室⇔LD連続	キッチン⇔洗面連続
1位	プランA	●	●
2位	プランB	●	●
3位	プランC	●	●
3位	プランD	×	●
5位	プランE	●	×
6位	プランF	●	×
7位	プランG	×	●
7位	プランH	●	×
9位	プランI	●	×
10位	プランJ	●	●

ミサワホーム(株)「SMART STYLE」の販売実績より(2010年4月～10月)



【1位】プランA 和室⇔LD⇔キッチン⇔洗面が連続した間取り

No.	発生場所	対象	起因物	内容	複合要因			
					要因 1	要因 2	要因 3	
A	1	洗面所	全世代	段差	段差でのつまずき	設計ミス	床材	狭い
	2	トイレ	全世代	建具	外開きのドアによる建具と人の衝突・干渉	動線計画	建具設計	廊下の幅
	3	書斎	幼児・子供	机	机天板裏面の補強材に頭をぶつける	見通しが悪いLDK	家具設計	狭い
	4	書斎	幼児	椅子	椅子のキャスターで幼児の手を轢く	見通しが悪いLDK	家具設計	物が多い
	5	台所	幼児・子供	台所	キッチンに幼児が侵入	動線計画	ガード有無	キッチン設計
	6	居間・リビング	全世代	本棚・ラック	背の高い本棚やラックの転倒	収納計画	家具レイアウト	家具種類
	7	寝室	幼児	ベッド	ベッドからの転落	家具レイアウト	床材	ベッドの種類
	8	ダイニング	幼児	掃除機	使用時の排気による健康被害	家電設計	換気設計	窓の位置
	9	ダイニング	幼児	掃除機	コード巻き取りでの怪我が心配	家電設計	コンセント種類	ロック機能
	10	リビング	幼児	TVボード等	DVDデッキや配線等をいじる	家具レイアウト	収納計画	コンセント位置
	11	ダイニング	幼児・子供	インターホン	外に会話が筒抜け	設置高さ	家電設計	ロック機能
	12	台所	全世代	キッチン家電	設置スペースが足りない	収納計画	家電設計	コンセント位置
	13	ダイニング	幼児	冷蔵庫	指を挟んだり扉に頭をぶつける	家電設計	家電レイアウト	ロック機能
	14	リビング	幼児	ファンヒーター	スイッチをいじって誤操作	設備計画	家電設計	ロック機能
B	15	台所	幼児・子供	包丁	包丁を取り出そうとする	動線計画	収納方法	ロック機能
	16	収納	全世代	折戸	折戸の真ん中で指や手を挟む	建具設計	クッション材	生活習慣
	17	居間	全世代	襖	指詰め	建具設計	クッション材	生活習慣
	18	リビング	幼児	灰皿	誤飲	生活習慣	収納方法	注意不足
	19	リビング	幼児	ペットの餌	誤食	生活習慣	収納方法	注意不足
	20	リビング	幼児	ペット(犬)	檻に手をかけて手を噛まれた	生活習慣	設置場所	注意不足
	21	浴室	子供	浴槽	浴槽の縁から滑って浴槽に転落	浴槽の素材	生活習慣	形状・性能
	22	浴室	全世代	給湯	一時的に高温のお湯が出る	温度設定	生活習慣	設備性能
	23	リビング	全世代	時計	粘着テープ付フックがはがれ時計が落下	賃貸(ビス留め禁止)	時計の種類	施工方法
	24	バルコニー	幼児	サッシ錠	内部から鍵をかけられ外に締め出し	建具(高さ・操作性)	生活習慣	二重ロック
	25	玄関	全世代	つっぱり収納	つっぱり収納が落下	収納(据付収納不足)	性能(安全性)	施工方法
	26	台所	幼児・子供	ガスコンロ	元栓を締めていたずら防止	設置場所・動線計画	ロック機能	操作性
	27	リビング	子供	椅子	後ろ向きに座り前のめりに転倒	デザイン	性能	設置場所
	28	リビング	子供	アイロン台	折りたたみの脚に指を挟んで流血	使用場所	機構(危険)	収納場所
	29	リビング	子供	ローテーブル	端部に子供が乗りくひっくり返る	家具選び	機構(危険)	設置場所
	30	リビング	全世代	パーテーション	パーテーションが倒れた	家具選び	形状(不安定)	設置場所
	31	廊下	全世代	姿見の鏡	姿見が固定していないのでよく倒れる	賃貸(ビス留め禁止)	形状(不安定)	設置場所
	32	キッチン	子供	冷蔵庫	開け放したままになっている	設置場所	ロック機能	操作性
33	リビング	子供	リモコン	椅子に乗ってでも取ろうとする、誤操作	設置高さ	デザイン	操作性	
C	34	バルコニー	子供	室外機	室外機の上に登る	設置場所	鍵の位置	形状(登れる)
	35	書斎	子供	PC	机によじ登って触ろうとする	設置高さ	設置場所	操作性
	36	リビング	幼児	オーディオ	ビデオデッキの中におもちゃを入れる	設置高さ	設置場所	デザイン
	37	玄関	子供	玄関ドア	重いので、挟んだ場合は大怪我	建具設計	デザイン	クッション材
	38	台所	子供	包丁	台所に来て包丁を取り出す	動線計画	収納方法	ロック機能
	40	収納	子供	折戸	折戸の真ん中に手や指を挟む	建具設計	クッション材	生活習慣
	41	トイレ	子供	手摺	手摺下部で頭をよくぶつける	設置高さ	形状(危険)	設置場所
	42	ダイニング	子供	インターホン	インターホンをおもちゃにして遊ぶ	設置高さ	操作性	デザイン
	43	リビング	子供	キャビネット	何度も指を挟む	設置場所	形状	機構(危険)
	44	リビング	全世代	時計	釘打を禁止され、時計を引っ掛けられない	賃貸(ビス留め禁止)	時計の種類	施工方法
	45	台所	子供	ガスコンロ	使用中はチャイルドロック効果無し	設置場所	ロック機能	操作性
	46	台所	子供	オープンレンジ	高めの位置で子供のいたずらはない。	設置場所	ロック機能	操作性
47	台所	子供	トースター	使用する時以外は収納しておくので安全	設置場所	ロック機能	操作性	
48	ダイニング	子供	電話機	手の届かない高さでも椅子を持ってきて遊ぶ	設置高さ	設置場所	操作性	
49	書斎	子供	PC	C/Dのボタンを押して何度も開閉する	設置高さ	設置場所	操作性	
50	リビング	子供	リモコン	おもちゃにして遊ぶ、高いところにしまう	設置高さ	操作性	デザイン	
51	リビング	子供	液晶テレビ	倒しそうで怖い、テレビボードに乗っかる	設置高さ	設置場所	安定性	
52	寝室	子供	加湿器	わざと倒す	設置高さ	設置場所	安全性	

■家庭内事故複合要因調査(モニターA・B・C)

	台所
	建具指詰め
	リモコン・インターホン

業界の枠を超えた対応策が必要

住宅訪問・レポート調査から作成された「生活不具合MAP」を分析した結果、家庭内事故は、1つの要因によって起きているのではなく、様々な要因が複合して起因となり、発生していることがわかった。個々の要因を様々な視点から分析した結果、業界の枠を超えた多業種連携の対応策が必要であ

ることがわかった。

調査結果の中から3物件を抽出し、発生率の高い3項目の「家庭内事故・不具合」の検証を行った。

- (1) キッチン内で起きる家庭内事故に関する分析
- (2) 建具での指詰め、手挟みに関する分析
- (3) リモコン・インターホンの設置位置・誤操作に関する分析

例 1：キッチンで起こる家庭内事故の他業種連携対応策

● 複合要因調査

- ・子ども用のガードフェンスがキッチンに設置できない。
- ・刃物の収納場所が不適切。
- ・収納スペースが足りない。考慮されていない。
- ・家電が子供の手の届く高さにある。

● 複合要因分析

- ・子供が侵入しやすい平面計画になっている。
⇒要因①「プラン」



- ・収納家具を追加するスペースのゆとりが事前に考慮されていない。 ⇒要因②「収納」
- ・ラック高さが低く、幼児の手の届く位置に家電がくる。 ⇒要因③「家具」
- ・包丁の収納位置が低く、また簡単に開閉できてしまう。 ⇒要因④「キッチン」
- ・ガスコンロのロック機構が簡易すぎる。 ⇒要因⑤「コンロ」
- ・ガス使用中に子供が近づくのでロック機能は役立たない。 ⇒要因⑥「ガードフェンス」

● 他業種連携の対応策例

「住宅メーカー」

- ・後からガードが取り付けられるキッチンを設計する。
- ・キッチンスペースを広く設計する。
- ・キッチンバックヤードや食品庫のスペースを確保する。
- ・後からガードフェンスを取り付けることを考慮した壁の配置とする。

「キッチンメーカー」

- ・包丁収納場所を幼児の手の届かない位置に変更する。

「家具・家電メーカー」

- ・家電を子どもでの届かない高さにビルトイン設置できるカップボードを開発する。

例 2：建具での指詰め、手挟みに関する家庭内事故の他業種連携対応策

● 複合要因調査

- ・玄関ドアでの指詰めや手挟みの心配。(重いので重症になる可能性大)
- ・収納建具での指詰め、手挟み。(収納内部に入って遊んでしまう。)
- ・襖(引戸)での指詰め、手挟み。(重い事が多く、勢よく閉めるため、危険性大)
- ・ドアを開いた時の衝突。
- ・キャビネット等の扉による指詰め、手挟み。



● 複合要因分析

- ・防音や防犯上玄関ドアは重く、風に煽られることもあり危険。 ⇒要因①「建具性能」
- ・収納の建具は折戸が多く、手を挟む危険性が高い。 ⇒要因②「建具性能」
- ・アパートやマンションの場合、広さに余裕がないため廊下の幅が狭く、水廻りは廊下に面していることが多いので、ドアを開くと廊下に人がいる場合に衝突することがある。 ⇒要因③「プラン」
- ・キャビネットやTVボードの扉で遊んでいるうちに手や指を挟んでしまう。 ⇒要因④「家具配置」, 要因⑤「家具設計」

● 他業種連携の対応策例

「住宅メーカー」

- ・動線計画をする上で、建具の開き勝手を考慮して設計する。
- ・建具の動作範囲が確保できない場合は、引戸を採用。

「建具メーカー」

- ・建具面材に明かり窓を設け、存在に気付けるように配慮する。
- ・指はさみ防止開閉構造付きの玄関ドアの開発。戸先側だけでなく吊元側も危険であり、ピボットヒンジを枠内に納め、吊元側の隙間を小さくする必要がある。
- ・キャビネットにはチャイルドロックを設置する。(標準装備が望ましい)

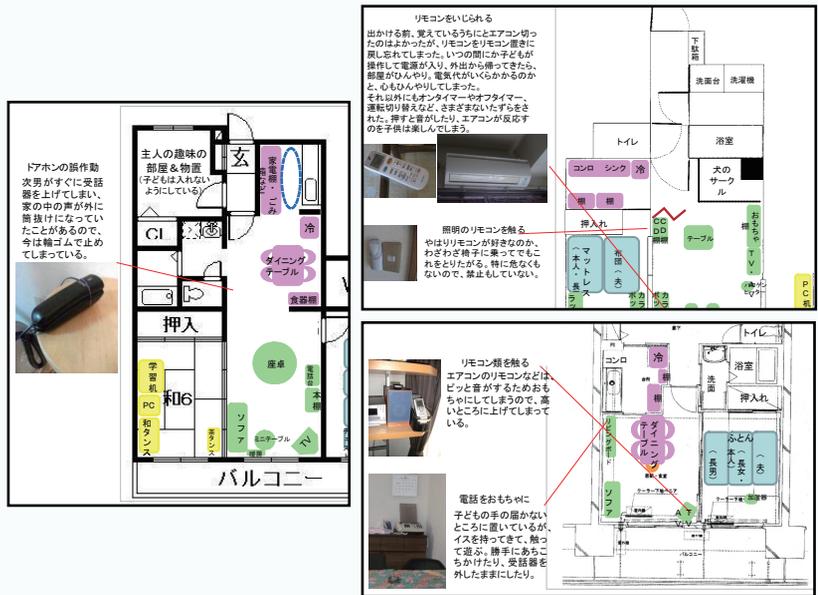
例3：リモコン、インターホンの設置位置、誤操作に関する他業種連携対応策

● 複合要因調査

- ・ 幼児や子供が強い興味を示し、触りたがり、誤操作につながっている。
- ・ 操作が複雑で、子供だけでなく、高齢者の誤操作も起こりうる。

● 複合要因分析

- ・ インターホンの設置高さが低く、子供でも椅子に乗れば届いてしまう。 ⇒ 要因①「設置高さ」
- ・ 子供の手の届くところに電話やリモコンが置いてある。 ⇒ 要因①「設置位置」
- ・ 住宅内に数多くのリモコンが散在している。 ⇒ 要因②「家電設計」
- ・ 子供が触りたくなるデザイン。 ⇒ 要因②「家電設計」
- ・ ボタン操作が複雑で、幼児だけでなく高齢者も誤操作を招く。 ⇒ 要因③「家電設計」



● 他業種連携の対応策例

- 「住宅メーカー」
 - ・ 取り付け高さを検討。ある程度の年齢になるまで届かない高さに設置できるような造り付けの棚等。
- 「家電メーカー」
 - ・ 散在しているリモコンを統合化し、1台でまとめてコントロールできるようにする。
 - ・ 複雑なボタン操作を簡略化する。ボタンのサイズを大きくし、視認性、操作性を向上する。
 - ・ 幼児や子供がおもちゃとして使いたくなるようなデザインを避ける。(過剰な装飾を避ける)
 - ・ インターホンやリモコンにチャイルドロック機能を設定する。

「危険の芽」に対する不安が強い

インターネットを利用した定量調査を分析した結果、収納量不足と可変性のなさ、家具・家電の置き場所やサイズが限られることへの不満が多く、「段差・勾配・曲がる・狭い・滑る・見えない」などの「危険の芽」に対する不安が強い事がわかった。

収納不足や不適切な家電配置などが事故の要因

「生活不具合MAP」を分析した結果、収納不足や不適切な家電配置、狭いLDK空間、家具配置を無視した配線計画等が家庭内事故の要因となっていることがわかった。

↓ 収納量不足と可変性のなさ、家具・家電の置き場所やサイズが限られることへの不満が多い。

収納スペースが不十分	【家族の変化】物の増加に対応していない	・ 子供が生まれてから、子供服の収納場所に困っている。(20代)
	【季節もの】容量が足りない	・ 子供が成長するにつれて物が増え、収納場所が足りなくなった。(40代)
	【生活スタイル】スタイルに合った収納になっていない	・ 季節の電化製品(ストーブや扇風機など)の収納がうまくできない。(40代)
置かれる家具・家電のことが考えられない	【コンセント】数・位置の不便さ	・ 客用布団や季節ごとの布団などをしまふスペースがもう少しほしい。(50代)
	【キッチン】使いたい物が置けない	・ 浴室の近くに、着替えを収納できるスペースがなく、子育てする上でも不便。(40代)
	【エアコン】風向きや配管への配慮	・ リビングに全く収納がなく、不便。(40代)
	【家具】配置やサイズが制限される	・ テレビ周りや、インターネット用に電話の配線周り、コンセントがたくさん欲しい。(30代)
動線に問題	【洗濯動線】干す場所へのアクセスが悪い	・ コンセントが少なく、位置も悪く、着替えの後ろになつてしまふものがある。(60代)
	【廊下】床が滑る・狭い	・ キッチンに家電製品の設置スペースが少なく困っている。(40代)
	【廊下】子どもが見えない	・ 食器棚を置くスペースがなく、キッチンから離れたところに置いています。(40代)
	【廊下】子どもが見えない	・ 大きめの冷蔵庫は、キッチンに入らないので、リビングに置いている。(30代)
子どもや高齢者にとってやさしくない危険がある	【階段】段差がある	・ エアコンの風向きを考えると、コンセントの位置が不適切。(40代)
	【階段】曲がる・急	・ 室外機に達する配管がエアコンから近すぎで、覆いをするのに手間取った。(40代)
	【廊下】曲がる・狭い	・ 壁面に柱や梁があり、置く家具の高さ・幅・配置が制限される。(20代)
	【浴室】床が滑る・狭い	・ 窓があるため家具の配置が限られる。(50代)
家事を行う立場で間取りが考えられていない	【動線】キッチン・リビングと洗面・浴室の行き来がしにくい	・ 洗面のあと、干す場所が遠い。また洗濯物をとり入れた後、ただだ入りアイロンをする場所が遠い。(40代)
	【スペース】2人で作業しにくいスペース	・ 洗濯をしてリビングを渡ってベランダに出るで、家族がくつろいでいると通りにくい。(50代)
	【動線】キッチン・リビングと洗面・浴室の行き来がしにくい	・ リビングから洗面所・洗濯機置き場へ行きにくい。(40代)
子育てする母親の立場で間取りが考えられていない	【子どもとの距離】見えない、遠い	・ キッチンと洗面のスペースの行き来がスムーズにできる間取りだと、家事がはかどると思う。(30代)
	【部屋数】子どもの成長に対応していない	・ 南北に長い廊下があるので、北側の部屋と南側の部屋の行き来が効率悪い。(40代)
	【危険に対する配慮】子どもが危険な場所に行きやすい	・ 廊下が曲がりくねっているため、急ぎの時にしれたい。(50代)

↓ 「段差・勾配・曲がる・狭い・滑る・見えない」などの「危険の芽」に対する不安が強い。

子どもや高齢者にとってやさしくない危険がある	【階段】段差がある	・ リビングと和室の間に段差があり、子供が転びそうになる。(30代)
	【階段】曲がる・急	・ 段差があり、よくつまづく。(50代)
	【廊下】曲がる・狭い	・ 足踏みが曲がっているため、足を踏みはずすのではないかと心配。(60代)
家事を行う立場で間取りが考えられていない	【浴室】床が滑る・狭い	・ 階段の勾配がきつい。(60代)
	【間取り】子どもが見えない	・ 曲がり角が多い。廊下の幅が狭い。(50代)
	【動線】キッチン・リビングと洗面・浴室の行き来がしにくい	・ 浴室と脱衣所の段差がある。また、浴室の床が滑りやすい。(50代)
子育てする母親の立場で間取りが考えられていない	【子どもとの距離】見えない、遠い	・ 浴室がバリアフリーでなく狭い。(60代)
	【部屋数】子どもの成長に対応していない	・ キッチンに入ってしまうと、子どもから目が離れてしまう。(30代)
	【危険に対する配慮】子どもが危険な場所に行きやすい	・ キッチンと浴室は近くにあってはいいが家事の途中で行き来しやすいが、離れているために不便を感じます(40代)
子どもや高齢者にとってやさしくない危険がある	【階段】段差がある	・ リビングから洗面所・洗濯機置き場へ行きにくい。(40代)
	【廊下】曲がる・狭い	・ 未だ家事を手伝ってもらおうとしても、キッチンとリビングが狭いので、お互いに体がぶつかって、うまくいかない。(50代)
	【浴室】床が滑る・狭い	・ お互いに体がぶつかって、うまくいかない。(50代)
子育てする母親の立場で間取りが考えられていない	【子どもとの距離】見えない、遠い	・ 料理しているリビングで遊ぶ子どもの姿が全く見えない。(30代)
	【部屋数】子どもの成長に対応していない	・ 洗濯する場所が子どもがいる場所から遠い。(50代)
	【危険に対する配慮】子どもが危険な場所に行きやすい	・ 子どもが育ち、各々に部屋が欲しくなったときに今の間取りでは足りない。(30代)

- 造り付け収納が不足している為、生活空間はモノや家具で溢れている。移動や転倒時に様々なモノにぶつかる事が多く、家具倒壊による事故も起こりやすい。

私(母親)の友人が来た時
独身の友達がたまに来る程度

子どもの友だちが来た時
保育園に入ってからあまりないが、以前はよく来ていた

仮住まいなので家具を増やしたくなく、つっぱり収納にしていたら、十分な耐荷量にもかかわらず、落下してきた。誰もいなくてよかったが、片付けが大変。

姿見が倒れる
姿見は立てかけただけで、固定してないのでよく倒れる。反対側の壁で止まるので、ガラスが割れるなどの大事に至ることはないが、よくない気がする。

トイレのロック機能
それぞれのスイッチ下に付いているが、面倒で使わない。こまめにガスの元栓を開けるようにしている。

キッチンのフェンス
犬用に買ったフェンスだが、長男が小さいときにも重宝した。ただ、閉め忘れることも多い。

つい立てが倒れる
昔ははいちばん右の板が動いただけだが、一度だけ倒れたことがある。

テーブルのガラス板
このテーブルは、ガラス板が上に載せてあるだけ。以前、もう一枚の幅の広いガラス板を載せていたら、子どもが端につかまって立ったため、ガラス板の反対側がもち上がった。けがはなかったが、ヒヤリとした。それ以来、幅の広いガラス板は使っていない。

押入収納だけでは現在の生活スタイルに合わない

マットレスの下敷きに
風を通すためにマットレスを立てかけていたら、それで子どもが遊びだし、そのうちに倒れて下敷きになってしまった。私が近くいたからよかったが、一つ間違えれば事故になるかも。

ミンソの針で指を刺した
子どもが2歳くらいの時、内職でミンソを使っていたら、子どもが興味津々にうっかり出したままに刺したときに、自分で針を触って、刺してしまった。天はたけがでなかったし、それ以降、ミンソは危ないものと学んだようなので、この程度で済んでよかった。

アイロン台の脚の付け根で指を刺す
アイロン台の脚をたたむ様子に興味を持ってしまい、自分で触って、指を挟んでかなり血が出るけがとなった。

椅子が後ろに倒れた
イケアで買ったこの椅子は、頑丈そうに見えるが、倒れやすい。以前、子どもが背もたれ向きに椅子に乗っていたら、椅子が後ろに倒れて壁で頭を打った。

対象者プロフィール

- 家族構成 本人・28歳・会社員
夫・32歳・会社員
長男・1歳1ヵ月
- 居住地域 神奈川県川崎市
築3年の分譲マンション、45階建ての29階、2LDK
- 住まい

ソファへ飛び込み、床へ落ちそう
子ども用サークル内のおもちゃ箱の上に乗り、サークルのフェンスに手をかけ、ソファに頭から飛び込んできた。そのまま床に落ちると危ないと思いき、フェンスの近くに上れるものを置かないようにした。また、子どもから離れるときはおもちゃ箱をフェンスの外に動かすようにしている。

テレビ台の角で頭を打つ
子ども用サークル内で走り回っているときに転んで、フェンス越しにテレビ台の角に頭をぶつけ、赤く腫れたことがある。フェンスがネット状なので、フェンスの外にあるものにもぶつかる可能性があることに初めて気づき、ガードのために、テレビ台の角をタオルで覆った。

狭い空間に家具が集中

私(母親)がよくいる場所
リビングのソファで過ごすことが多い。また、リビング内の子ども用サークルの中で子どもと一緒に遊ぶことも多い。

長男がよくいる場所、長男の友だちが来た時
リビング内の子ども用サークルの中で遊んでいる。

寝る場所
寝室のベッドに、夫と本人、子どもは隣に敷いた布団で。

タンスの取っ手で顔を打つ
取っ手は、円柱状のものが突き出ているタイプで、転んだときに顔がぶつかりそうになった。万が一、目に当たったらかなり危険だと思いき、タンス全体に大きなタオルケットや毛布をかぶせて、取っ手部分が見えなくなるようにした。

子ども用サークル
2ヵ所フェンスを敷いており、子どもの安全を確保しているが、ジャングルジムからフェンスを乗り越えるのも、時間の問題と感じている。

ベッドの端の出っ張りでケガ
転んだ拍子に、ベッドの端の出っ張った部分に顔をぶつけ、その際に歯茎が切れ出血。なかなか血が止まらず、子どもは大泣きで、周りが血まみれになったことがあり、子どもに申し訳なく思うと同時に、とてもショックを受けた。二度と起こらないように、ベッドの横に掛け布団を敷きつめ、子どもがベッドに直接触れることがないようにした。

- 子どもは家電製品が大好きで必ず触りたがる。家電製品全般に、設置場所・高さや使用方法・チャイルドロックの再検討が必要。住宅側でも家電の配置を考えた設計が必要。

床置き家電がトラブルを招きやすい

クリーナー



クリーナーを触るのが好きで、掃除しているときにパイプを持ちたがり、危ないと感じることがある。コードを本体に「しゅるしゅる」とも好きで、勢いよく触るとときに手足に当たってしまうことになる。

加湿機の水タンク



就寝時に加湿機を使っていたが、タンクの出し入れをして、畳が水浸しになったため、使いたいが、今は使っていない。タンクの出し入れは、おもちゃのパズルのようである。

テレビ



台の上で前後に揺らそうとしたため、下を固定している。

DVD、Dビデオ

10か月の頃、勝手にスイッチオンし、中ビデオを突っ込んで出せなくなった。ガードをつけたが、5cm幅の網目では、手が入るためにあまり効果がないようだ。

炊飯器の内蓋部品



椅子の上に立ち、炊飯器の内蓋を両手で開け、内蓋のパーツをとって口に入れたことがある。炊飯時は湯気が熱いとわかってはいるが、炊飯時以外も、触らないように気をつけている。

オーブンレンジの扉の精開



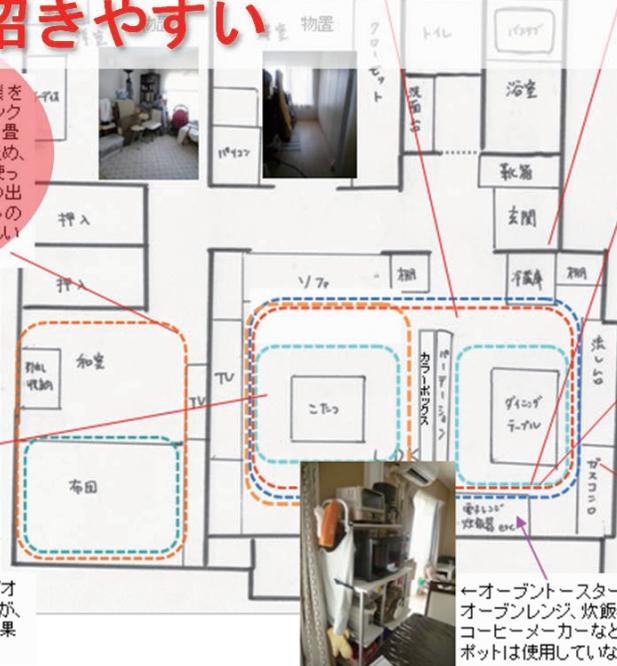
椅子の上に立ち、扉を開け開けするようになった。未使用時のため、今は危険を感じたことはないが、今後心配。

ガスコンロの操作レバー



操作部は、火がついているときは火力調節レバー、ついていないときは押しボタンを触る。グリルを引き出し、石を床にばらまいたことがある。コンロ面は熱いとわかってはいるため触れない。

エアコンやテレビのリモコンは、パーテーションの欄干に子どもの手の届かない場所に置いてある。以前、エアコンのリモコンを触った際に冷房に設定されていた。



様々な家電にチャイルドロックの不足を感じている

炊飯途中でスイッチを押してしまったり、蒸気が出ているのに近づこうとしたら。保温中にふたの蓋に触ったりやけどしそうになった。キッチン入れないよう柵をつけるのがよいと思うが、号泣だろう。蒸気レスの炊飯器は魅力的だが、高価なので購入を迷っている。

コーヒーメーカーによるやけど

コーヒーを淹れている時にコーヒーメーカーに触った時にコーヒーメーカーが倒れてコーヒーがこぼれたら、やけどしてしまうから危ないと思うので手が届かない高い位置に置くことにした。



アイロンを落としそうになった

アイロンの乗ったアイロン台を倒しそうになった。アイロンは子どもの前ではかけないが、高温のアイロンを置いておく間に触ったらやけどするかもしれないので怖い。使わない時は子どもの手の届かない場所(タンスと壁の隙間に)に収納しているが、アイロン後の熱が冷めて収納ができるようになるまでの置き場に悩む。使用後、瞬時に熱が下がるとか、即、カバーがつけられるものがあればいいと思う。



リモコン類のボタンを押す・乾電池を出す

各種リモコンのボタンを押すまわたり(暖房がいつのまにか冷房になっていたり、テレビの音量が急が上がったりする)、裏ぶたをあげて中の乾電池を口に入れていた。リモコン類を手の届かない場所に置き、裏ぶたをゼロテープで固定した。テレビリモコンなどどうしても手元に置きがちなので、本当は裏ぶたを子どもが開けられないような工夫やチャイルドロック機能のあるリモコンがあればいいと思う。



テレビへの傷・本体が倒れそう

テレビに触って傷をつけそうになったり、Wiiのアンテナを壊しそうになった。薄型テレビは子供の手でも倒れる可能性があり危ない。子どもが触りそうなのはテレビの前にテーブルを置いてガードしている。



レンジ・オーブントースター

今の置き場所には子どもの手が届かないので、危険を感じていない。





- 親の目が届く範囲内で生活している為、限られた狭いスペースしか活用していない。音や気配が伝わる安心感を得る為に、住まいには空間の連続性が必要。

■対象者プロフィール

- 家族構成** 本人・30歳・専業主婦
夫・32歳・会社員
(長女・1歳4ヵ月)
- 居住地域** 兵庫県姫路市
- 住まい** 築18年の賃貸マンション、7階建の4階、3LDK

**私(母親)が
よくなる場所**

LDKまたは続きの和室に
いることが多い。

**子どもの遊び場所
子どもの友達が来た時
私(母親)の友人が来た時**

ほとんどDKか続きの和室
のどこかにいる。

寝る場所

和室の布団で、3人一緒
に寝る。

デッドスペース = 思わぬ事故が発生

ドア、扉の指詰め

トイレのドア(左下)をボタン！と開めるのがブームのように、ドアノブと逆側のすき間に指をかけて開めようとして、危ない。洗面所の引き戸は開まる部分に指をはさみそうで怖い。

床の段差

廊下が一歩高くなっていて、子どもがつまづくことがある。廊下とLDの間の12cmの段差より、和室とLDの段差の方が、なぜかつまづきやすい。掃除機、洗濯機、出るときより入るときにひっかかりやすい。

キッチンレイアウト

キッチンは独立型のため、ダイニングとの間にガードをすると、LDにいる子どもが見えにくくなり、子どもも私が見えないと泣き叫ぶと思う。以前、ダンボールでガードをしたことがあるが、乗り越えてしまった。また、ガードがあると、私がそれを乗り越えるのが危険になりそうで、今は何もしてない。

床材(クッションフロア)

床はすべりやすく、健康の意味も兼ねて、ほとんど裸足で過ごさせている。クッションフロアは手入れがしやすいと思っていたが、ごはん粒などが落ちると乾燥して固まり、足の裏を傷つける凶器になる。この素材は床も傷つきやすく、家具のあとにつき、あまり良くないと思う。

■対象者プロフィール

- 家族構成** 本人・28歳・看護師(小児科)
夫・31歳・小児科勤務医
(長男・2歳/長女・1歳5ヵ月)
- 居住地域** 兵庫県神戸市
- 住まい** 築30年の賃貸マンション、16階建ての7階、4DK

**私(母親)が
よくなる場所**

DKまたはDKの奥の和室に
いることが多い。

**子どもの遊び場所
子どもの友達が来た時**

ほとんどDKか続きの
和室、寝室のどこか
にいる。

**私(母親)の
友人が来た時**

ダイニングとその続きの
和室。

寝る場所

和室の布団で、4人一緒
に寝る。

空間の連続性が重要 = 音や気配が伝わる

ダイニングと和室の間の仕切り

もともとダイニングと和室の間は襖で仕切られていたが、子どもが産まれてからは撤去し、上部をガラスの仕切りとし、下に室内干し用のポールを付けた。

ドアのすき間に指を挟んだことがあったので、ホームセンターで防止のストッパーを購入し、夫が取り付けました。

キッチン

廊下と物置の境にある敷居の木がささくれているので、足の裏をケガしたことがある。また、これらの段差は、子どもたちも慣れているので転ぶことないが、子どもの友達が来ると至る所で転んでいる。

手すり

入居したときから部屋に手すりが付いていたが、ここにぶら下がるので、かえって危ない。また、手すりの受けになっているパッキンを子どもが外し、口に入れていたことがあった。

キッチン

オープンキッチンは、子どもが自由に出入りして危険なので、長男が1歳半のときにガードを付けた。ダイニングのテーブルと、冷蔵庫の横に置いたダンボールで、ガードを押さえて倒れないようにしている。子どもは入らなくなったが、私もまたがなくては入れなくなり、不便に感じている。

玄関

ドアの下部の鍵(○印)は、長男は自分で開けられ、外に出られるので、必ず上部の鍵もかけるように気をつけている。

DK側から和室へ

キッチン

郵便受けのふたは金属製。子どもが郵便や新聞を取りに行ったときに、手前に開けると、ちょうど顔に当たり危ない。

・最初の配線計画が不十分であり、電気コードによる転倒の危険性が増している。

掃除機の排気とコード
頻りに使うため、ダイニングに、コンセントを差したまま出しっぱなし。使用中は、次男が排気口から出る風に当たったり、すぐにコードを巻き取ってしまったりと、何かと妨害される。排気は斜に悪そうだし、コンセントから抜けた状態でコード巻き取りは、ケガしそうなのでない。

ドアホンの誤作動
次男がすぐに受話器を上げてしまい、家の中の音が外に筒抜けになっていたことがあるので、今は輪ゴムで止めてしまっている。

調理家電
一番上にオーブントースター、胸の高さにオープンレンジ、その下に炊飯器とホームベーカリー。炊飯中は、炊飯器を手前引き出して、レンジに蒸気が当たらないようにする。子どもはここまで来ないようになっているので、調理家電ではヒヤッとしたことはない。

キッチン入口の冷蔵庫開閉でのけがや指詰め
調理中、キッチンの入口に来ることが多い次男。冷蔵庫の開け閉めの際には、頭を打ったり、指を挟んでしまったりすることがよくあって怖い。まだ勝手に冷蔵庫を開けることはない。

暖房(兼空気清浄機)でのけがやけいど、誤作動
ソファに座って、ミニテーブル上のノートPCを操作していると、次男が足元に寄ってくる。暖房(空気清浄セラミックファンヒーター)のすぐ近くまで来たり、体で押し倒してしまったりするので、いつかがけがやけいどをしそうで不安。また、勝手にボタンを押して遊んでしまうので困る(チャイルドロック機能はついていない)。

コード巻き取り時も危険性大

電話・テレビ周り
転居時から「なんとかしなきゃ」と思いながら、次男が勝手に開けたりしないよう、後付けのチャイルドロックだけ付けて、間に合わせている状態。

私(母親)の友人が来た時
DKで。子ども連れの場合は、大人はDKで、子どもは中2階の子ども部屋で遊ぶ。

長女のお友達が来た時
子ども部屋で遊ぶ。

トイレ

■長女がなかなかトイレから出てこないので見に行くと、便器のフタの上に立ち、跳っていたことがある。ケガも故障もなかったが驚いた。
■次女はおむつをトイレで替えているが、壁に向かって立たせると、ウォッシュレットのパネルに頭が当たる。

浴室

■実家の母親に手伝ってもらわないと、3人の子どもの風呂に入れるのは難しいので、自宅でおぼとんど入らず、近くの実家に行っている。
■長女がタイルで滑ったことがある。浴室の間には段差があり、浴槽が深くなっているため危ないと思っている。

キッチンカウンターの扉

ストッパーを付けていないときに、長女が勝手に中から包丁を取り出したので、すべての扉にストッパーを取り付けた。

ガスコンロ

魚焼きグリルを開けて、魚をお皿に移す時に、のぞきこんで触ろうとする。熱くなっているのだから心配。

コンセント

DKのコンセント口が高い位置にあり、コードが長く垂れたままになっており、子どもがひっぱるので、低い位置にあれば隠せるのにと。コンセント口は子どもが触るので、設置できるところはコンセントカバーを付けている。

コンセントの位置や高さが重要

“子ども目線ものづくり”が重要

調査結果の中で“子ども目線ものづくり”の重要性を再認識する意見が多数あった。(1)～(3)参照

子どもの身体寸法や行動特性に配慮した住まいづくりの為に、下記3点についても調査を継続したいと考えている。

(1) 子どもの手が届くサッシ錠の高さが、様々なトラブルの原因

乳幼児でも簡単に手が届いてしまう、サッシ錠の高さに対する不満が多数あった。子どもが1人でバルコニーに出ないように注意している母親は多いが、逆に自分がバルコニーにいる時はかえって安心してしまい、バルコニーで洗濯物を干している最中に子どもが誤ってサッシ錠を閉めてしまい、母親が家の中に戻れなくなるケースが見られる。子どもの手が届かない高さへの変更を検討する必要がある。

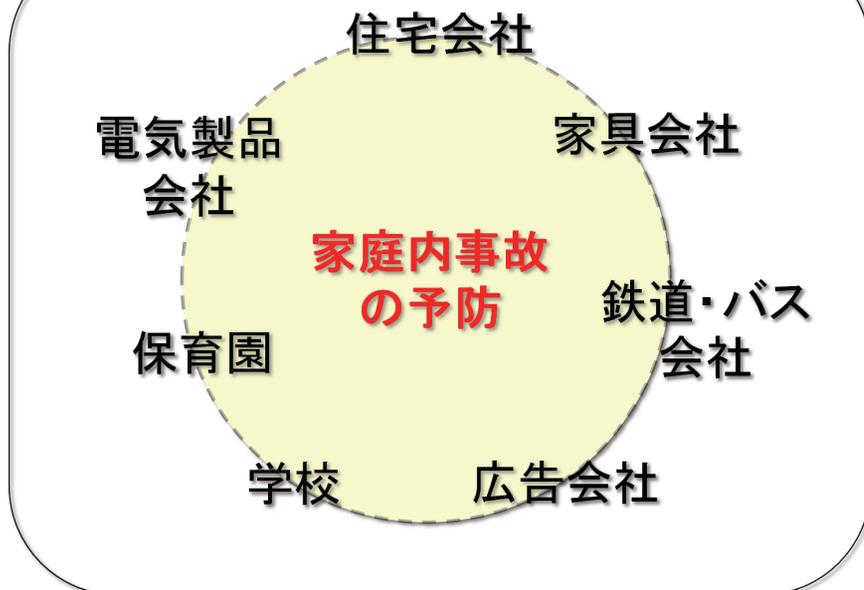
(2) 乳幼児の後追い時期は、ソフトクローズドア・引戸がかえって危険

乳幼児の後追いの時期にはソフトクローズドア・引戸がかえって危険を招くことがあることがわかった。母親が扉を閉めたつもりで部屋の外に出ると、後追いたした乳幼児がゆっくりと閉まる扉に手や指を挟んでしまう事例があった。高齢者・大人・子ども・乳幼児には行動特性に大きな違いがあり、ユニバーサルデザインという視点でひとくくりにするのではなく、年齢ごとの違いをきちんと把握してものづくりを行う必要があると言える。

(3) いたづらを誘導するデザインや機能が多い家電製品やリモコン

子どもはボタンを押す感触や音を楽しむ傾向がある。現在の家電製品やリモコンのボタンは、カラフルでわかりやすく音が出たりして使いやすい反面、かえって子どものいたづらを誘導してしまうような効果もあると言える。使いやすさだけを追求するのではなく、子どものいたづら防止の視点も取り入れた家電製品やリモコンの開発

業界の枠を超えた研究開発



が、母親のストレスを軽減し、子どもの家庭内事故予防にも役立つと考えられる。

まとめ

業界の枠を超えた情報提供やものづくりの仕組みが必要

- 親の目が届く範囲内のみが生活空間となり、狭い場所に生活用品が集中することで、かえって様々な家庭内事故を誘発している。
- 収納不足解消・家具家電の適切な配置（高さ）・適切な配線計画・空間の連続性確保等による「住まい全体の改善」によって、家庭内事故予防が期待できる。
- 1つの家庭内事故を防止するには、家電、家具、住宅などの多数の業界が協力することが必要不可欠である。業界の枠を超えた情報提供やものづくりの仕組みが必要である。

• 家電、家具、住宅などの多数の業界が協力して家庭内事故防止に取り組むプロジェクトを立ち上げる。(例：家電メーカーと住宅メーカーによる安全な家電設置高さの研究)

• 家庭内事故防止の為に、まずは不動産流通やリフォームまで含めた住まい全体の子育てで評価基準を設定する。最終的には、業界の枠を超えた多業種連携の子育てサポートシステムへと育てていきたい。

今後の展開

様々な業界と連携し、家庭内事故防止に取り組む

- 家庭内事故が起こる住宅背景に加え、生活背景、家族背景、社会背景も継続して調査を行い、様々な観点から家庭内事故の原因を究明する。又、その情報を公開する仕組みづくりも行う。